

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本ガス機器検査協会 名古屋事務所	階数	地上3階
建設地	愛知県小牧市大字間々原新田字下	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	45 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年5月15日
敷地面積	5,900 m <sup>2</sup>	作成者	(株)浅沼組 高橋 護
建築面積	1,869 m <sup>2</sup>	確認日	2017年5月15日
延床面積	4,408 m <sup>2</sup>	確認者	(株)浅沼組 高橋 護



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.1
空気質環境	3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	2.5
耐用性	2.9
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	4.5
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材の	3.6
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.6
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.6**

#### ③敷地内の緑化

**1.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	12.7 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

#### ②資源の有効活用

**3.3**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														2.9	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														2.6	
2.1 室温制御														3.1	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.4	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.1	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														3.1	
4.1 発生源対策														3.0	
1 化学汚染物質														3.0	
4.2 換気														2.6	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														4.0	
3 取り入れ外気への配慮														1.0	
4.3 運用管理														4.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														5.0	
Q2 サービス性能														2.9	
1 機能性														2.5	
1.1 機能性・使いやすさ														2.3	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														1.0	
1.2 心理性・快適性														2.3	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														2.0	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														2.9	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														4.0	
5 通信・情報設備														3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				3.4	0.29			-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高: 4.9m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.14	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.37			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.3
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> =0.85	4.5	0.10			-	4.5
2 自然エネルギー利用				3.0	0.25			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI <sub>m</sub> =0.77	3.5	0.39			-	3.5
4 効率的運用				2.5	0.26			-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型便器、自動水栓の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.63			-	3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生クラッシャーラン	4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	軽鉄+仕上材により分別が容易、再利用可能なOAフロアの採用	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡系断熱材の仕様なし	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が参照値の-17%	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

日本ガス機器検査協会 名古屋事業所建替プロジェクト

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:12.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺のまちなみ・景観との調和を図るとともに地域性を考慮した建築としています。
Q1 室内環境	事務所の照度は机上面で700Lxを確保し、室内環境に配慮した。
Q2 サービス性能	事務所の天井高さを2.70mとし居住環境に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内駐車場廻りに緑地を設け、近隣のまちなみ・景観へ配慮した。
LR1 エネルギー	効率の良い設備システムの採用。
LR2 資源・マテリアル	軽鉄+仕上材、OAフロアの採用により非再生性資源の使用量削減に配慮した。
LR3 敷地外環境	再生資材の使用により、ライフサイクルCO2排出量の削減に配慮した。
その他	